

報道関係者各位

日本の社会像に関する意識調査2025

日本労働組合総連合会(略称:連合、所在地:東京都千代田区、会長:芳野 友子)は、生活に対する意識や理想とする社会のイメージに関する意識・実態を把握するために、「日本の社会像に関する意識調査2025」をインターネットリサーチにより2025年10月28日～10月30日の3日間で実施、全国の15歳以上の働く男女(自営業・フリーランスを除く)1,000名の有効サンプルを集計しました(調査協力機関:ネットエイジア株式会社)。

【調査結果のポイント】

《くらしに関する意識》

- ◆ 「現在のくらしに満足」 40.5%(p.4)
- ◆ 現在のくらしに、より満足できるための改善点
「収入・貯蓄などの経済面」52.6%(p.5)
- ◆ 「将来について不安を感じる」 65.4%(p.6)

《社会に関する意識》

- ◆ 理想とする社会のイメージ
“税金などの負担は小さいが、自己責任型の社会”を選んだ割合が
2019年調査から5.0ポイント上昇(p.10)
- ◆ 「10年後の日本は、今よりよくなっていないと思う」 69.9%(p.14)
- ◆ “理想の社会”実現のために重要なこと 1位「賃金・労働環境の改善」(p.15)

《メディア・SNSに関する意識・実態》

- ◆ 日常生活に必要な情報を得ているメディア 30代以下では「SNS」が主流(p.16)
- ◆ メディアに対する信頼は? 「信頼を寄せているメディアはない」が最多に(p.17)
- ◆ SNS・動画コンテンツへの不安 “情報の正確性”“個人情報の漏洩”がTOP2(p.20)

◆暮らしに関する意識(p.4- p.9)

- ・「現在の暮らしに満足」40.5%
- ・現在の暮らしに、より満足できるための改善点は? 「収入・貯蓄などの経済面」52.6%
- ・「将来について不安を感じる」65.4%
- ・自身を不安にさせているもの 1位「老後の生活」2位「預貯金など資産の状況」

◆社会に関する意識(p.10- p.15)

- ・理想とする社会のイメージは?
多数派は、「格差はあっても力強く成長する社会」より「緩やかな成長でも格差の小さい社会」、「生涯現役で活躍できる社会」より「引退しても老後が安心な社会」
- ・「理想とする社会のイメージは“税金などの負担は小さいが、自己責任型の社会”に近い」は
2019年調査から5.0ポイント上昇
- ・「10年後の日本は、今よりよくなっていないと思う」69.9%
- ・自身の考える“理想の社会”を実現するために重要であると思うもの
1位「賃金・労働環境の改善」2位「安定した雇用」

◆メディア・SNSに関する意識・実態(p.16- p.20)

- ・日常生活に必要な情報を得ているメディア 30代以下では「SNS」が主流
- ・メディアに対する信頼について、「信頼を寄せているメディアはない」が最多に
- ・「SNSや動画コンテンツを日常的に使用する」79.3%
- ・1日のSNSや動画コンテンツの使用時間が長いほど、将来への不安が高くなる傾向
- ・SNSや動画コンテンツを利用するうえでのメリットは?
- ・SNS・動画コンテンツへの不安 “情報の正確性”“個人情報の漏洩”“誹謗中傷、炎上”がTOP3

調査に関するコメント

日本労働組合総連合会
総合企画局長
山根 正幸

社会像に関する調査は、一部項目を除き 2019 年 4 月以降となります。コロナ禍や物価上昇を経験する中で働く人々の意識の変化を把握するために行いました。

暮らしの現状認識では、50 歳代以下、非正規雇用で働く層、年収の低い層で不満度が高い傾向は変わっていません。継続的な賃上げと格差是正の流れを社会に広げ、誰もが生活改善を実感できるようにすることが重要であり、連合も春季生活闘争をはじめとする各種の取り組みに全力を挙げていきます。

依然として多くの人が家計や老後に不安を感じている中で、今回は日本や世界の政治を不安視する割合が上昇しています。また、理想の社会に関する回答の中では、税金や保険料負担が少ない社会を志向する割合が若年層で増加しています。いずれも、いわゆるトランプ関税や世界各地で続く戦争・紛争、そして物価上昇など、政治経済の不透明感も反映されているものと推察されます。

SNS や動画コンテンツへの意識では世代間の差が見られます。若年層ではコミュニケーション活性化などポジティブに捉える傾向がある一方、年代が上がるほど社会の分断などを懸念する傾向がうかがえます。他方、多くの人が情報の信頼性などに懸念を示していることや、利用時間と将来への不安感との間に関連性をうかがわせる結果が出たことには留意が必要です。若年層を中心にメディアシフトが進む中、情報空間における信頼性の確保に向けた社会全体の工夫が重要であると考えます。

連合は、めざす社会ビジョンとして「働くことを軸とする安心社会～まもる・つなぐ・創り出す～」を掲げています。このビジョンの実現に向けた連合の活動が幅広く認知され、連合運動への理解と共感につながるよう、より効果的な情報発信に向けて、今回の結果も参考にしつつ引き続き工夫してまいります。

以上

調査結果

《くらしに関する意識》

◆「現在のくらしに満足」は40.5%

全国の15歳以上の働く男女(自営業・フリーランスを除く)1,000名(全回答者)に、自身のくらしや社会への意識について聞きました。

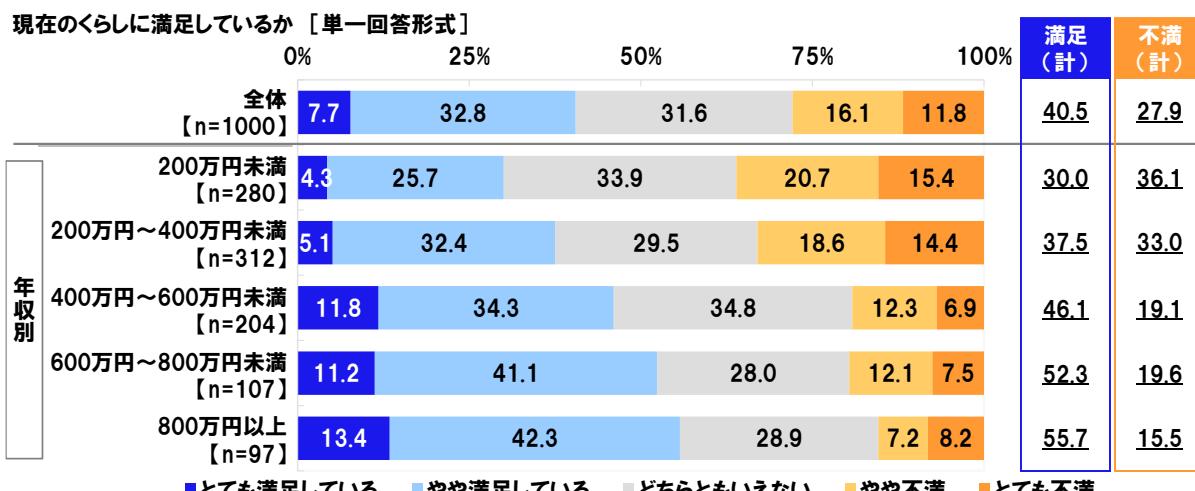
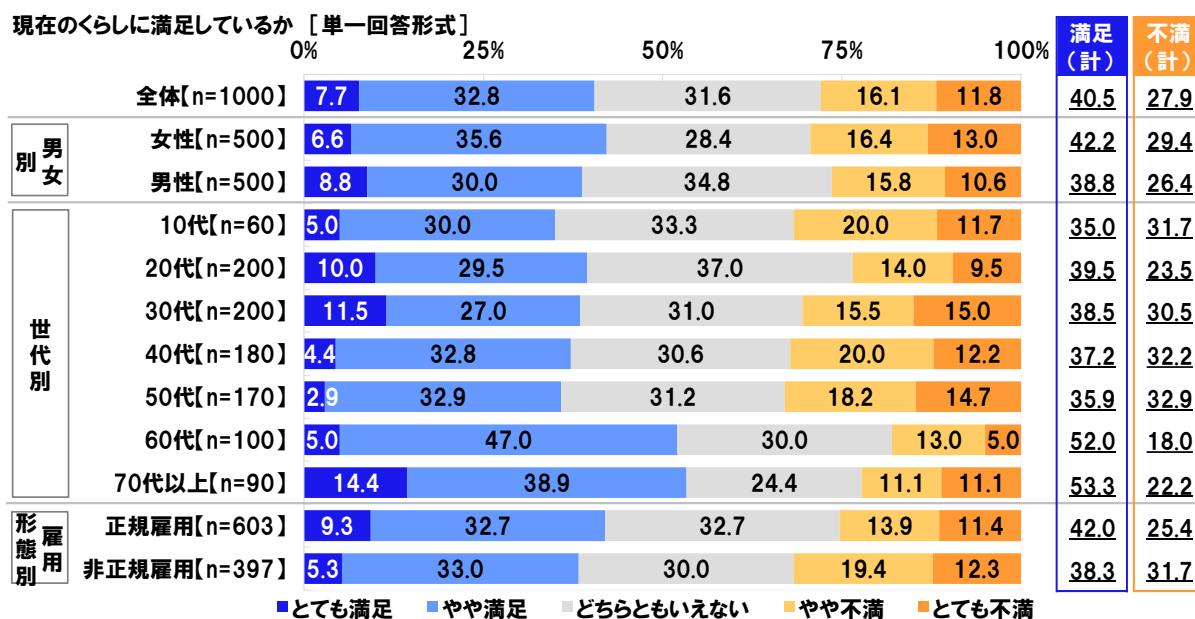
全回答者(1,000名)に、現在のくらしに満足しているか聞いたところ、「とても満足」は7.7%、「やや満足」は32.8%で、合計した「満足(計)」は40.5%、「とても不満」は11.8%、「やや不満」は16.1%で、合計した「不満(計)」は27.9%、「どちらともいえない」は31.6%となりました。

男女別にみると、「満足(計)」は女性では42.2%、男性では38.8%で、女性が男性を上回りました。

世代別にみると、「満足(計)」は高年層で高くなる傾向がみられ、60代以上(60代52.0%、70代以上53.3%)では半数を上回りました。

雇用形態別にみると、「不満(計)」は非正規雇用の人(31.7%)では、正規雇用の人(25.4%)と比べて6.3ポイント高くなりました。

年収別にみると、年収400万円未満の層で、「不満(計)」の割合が全体を上回っています。



◆現在の暮らしに、より満足できるための改善点は? 「収入・貯蓄などの経済面」52.6%

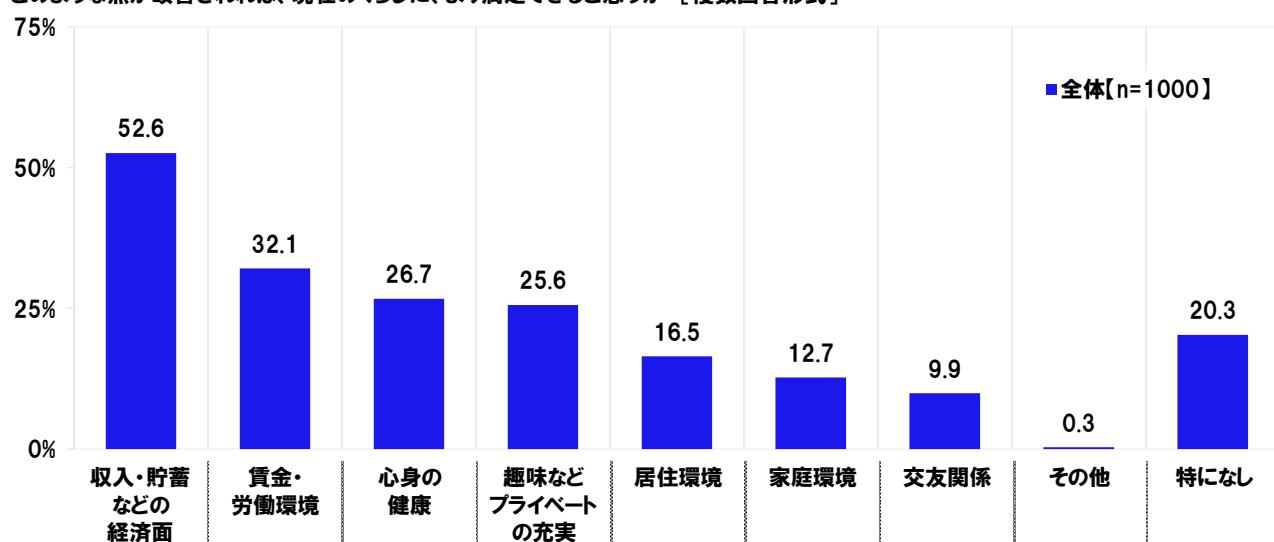
次に、どのような点が改善されれば、現在の暮らしに、より満足できると思うか聞いたところ、最も高くなつたのは「収入・貯蓄などの経済面」(52.6%)で、半数以上となりました。次いで、「賃金・労働環境」(32.1%)、「心身の健康」(26.7%)、「趣味などプライベートの充実」(25.6%)、「居住環境」(16.5%)となりました。

世代別にみると、10代では「収入・貯蓄などの経済面」(63.3%)が6割を上回りました。40代では「賃金・労働環境」(42.8%)が全体より10.7ポイント、70代以上では「心身の健康」(38.9%)が全体より12.2ポイント高くなりました。

雇用形態別にみると、非正規雇用の人では「収入・貯蓄などの経済面」が55.9%となり、正規雇用の人(50.4%)と比べて5.5ポイント高くなりました。

暮らしの満足度別にみると、「収入・貯蓄などの経済面」は不満層では78.9%と、8割に近くなりました。また、不満層では「賃金・労働環境」(50.9%)も半数以上となり、満足層(24.9%)を26.0ポイント上回りました。

どのような点が改善されれば、現在の暮らしに、より満足できると思うか [複数回答形式]



どのような点が改善されれば、現在の暮らしに、より満足できると思うか [複数回答形式]

		n数	収入・貯蓄などの経済面	賃金・労働環境	心身の健康	趣味などプライベートの充実	居住環境	家庭環境	交友関係	その他	特になし
全	体	1000	52.6	32.1	26.7	25.6	16.5	12.7	9.9	0.3	20.3
男	女	500	53.6	31.4	28.6	26.0	18.2	15.0	9.4	0.2	18.2
女	男	500	51.6	32.8	24.8	25.2	14.8	10.4	10.4	0.4	22.4
世代	10代	60	63.3	35.0	20.0	30.0	10.0	16.7	6.7	-	16.7
	20代	200	48.5	30.5	18.5	28.5	13.0	6.5	9.0	-	26.0
	30代	200	52.0	32.5	24.0	26.5	14.5	11.5	13.5	0.5	27.5
	40代	180	53.3	42.8	26.7	27.8	20.0	16.1	9.4	0.6	17.8
	50代	170	54.1	35.9	33.5	23.5	20.6	15.3	9.4	-	15.3
	60代	100	52.0	24.0	30.0	22.0	16.0	15.0	7.0	1.0	13.0
	70代以上	90	52.2	13.3	38.9	17.8	18.9	12.2	11.1	-	16.7
雇用形態	正規雇用	603	50.4	34.8	25.0	27.2	16.1	11.1	10.3	0.5	21.9
	非正規雇用	397	55.9	28.0	29.2	23.2	17.1	15.1	9.3	-	17.9
暮らし満足度	満足層	405	40.5	24.9	23.5	27.4	14.1	10.1	9.9	0.5	20.0
	不満層	279	78.9	50.9	37.6	27.2	26.5	22.9	13.6	0.4	7.9

■ 全体比+10pt以上 / ■ 全体比+5pt以上 / ■ 全体比-5pt以下 / ■ 全体比-10pt以下

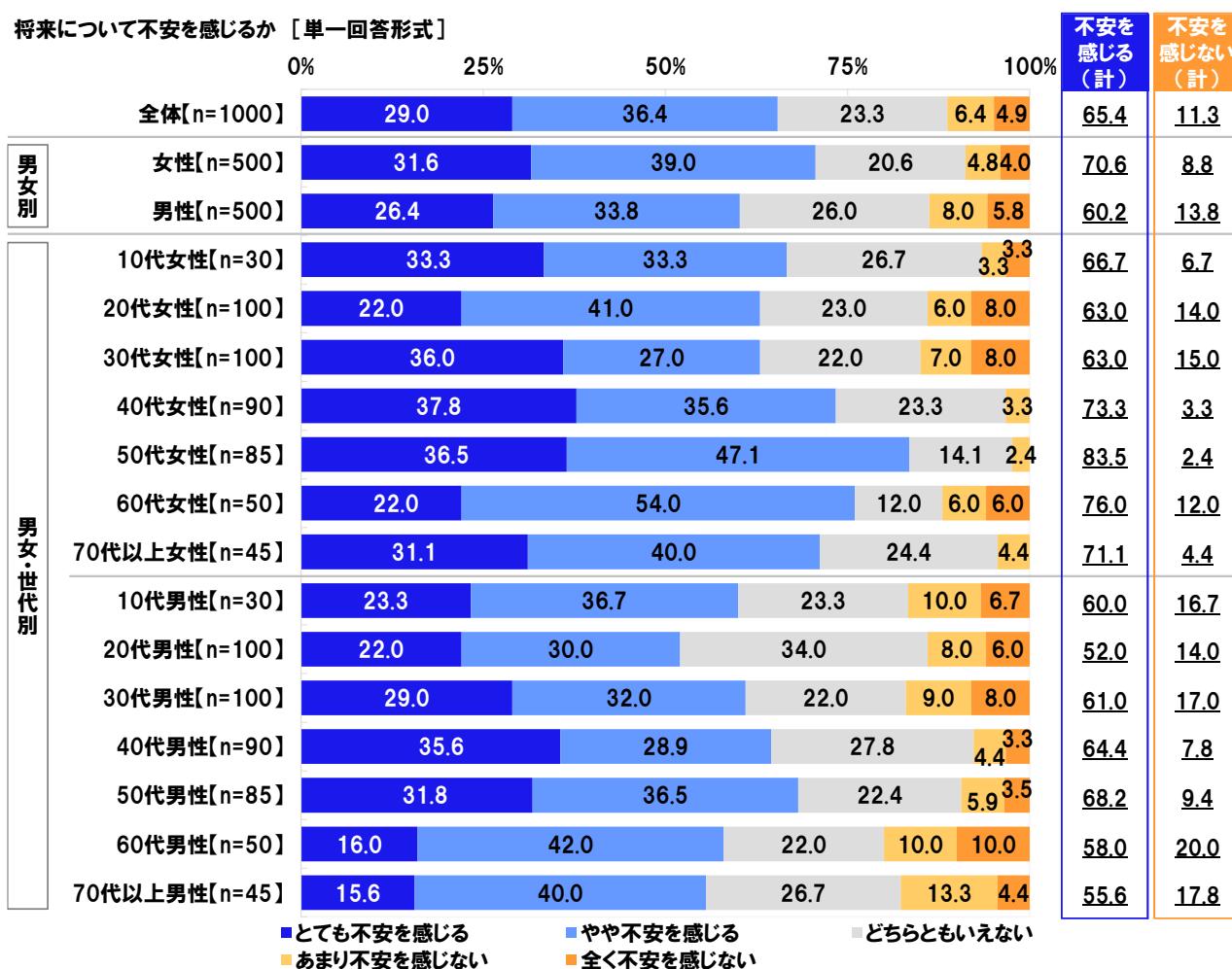
(%)

◆「将来について不安を感じる」65.4%

全回答者(1,000名)に、将来について不安を感じるか聞いたところ、「とても不安を感じる」は29.0%、「やや不安を感じる」は36.4%で、合計した「不安を感じる(計)」は65.4%、「全く不安を感じない」は4.9%、「あまり不安を感じない」は6.4%で、合計した「不安を感じない(計)」は11.3%、「どちらともいえない」は23.3%となり、過半数の人が不安を感じている結果となりました。

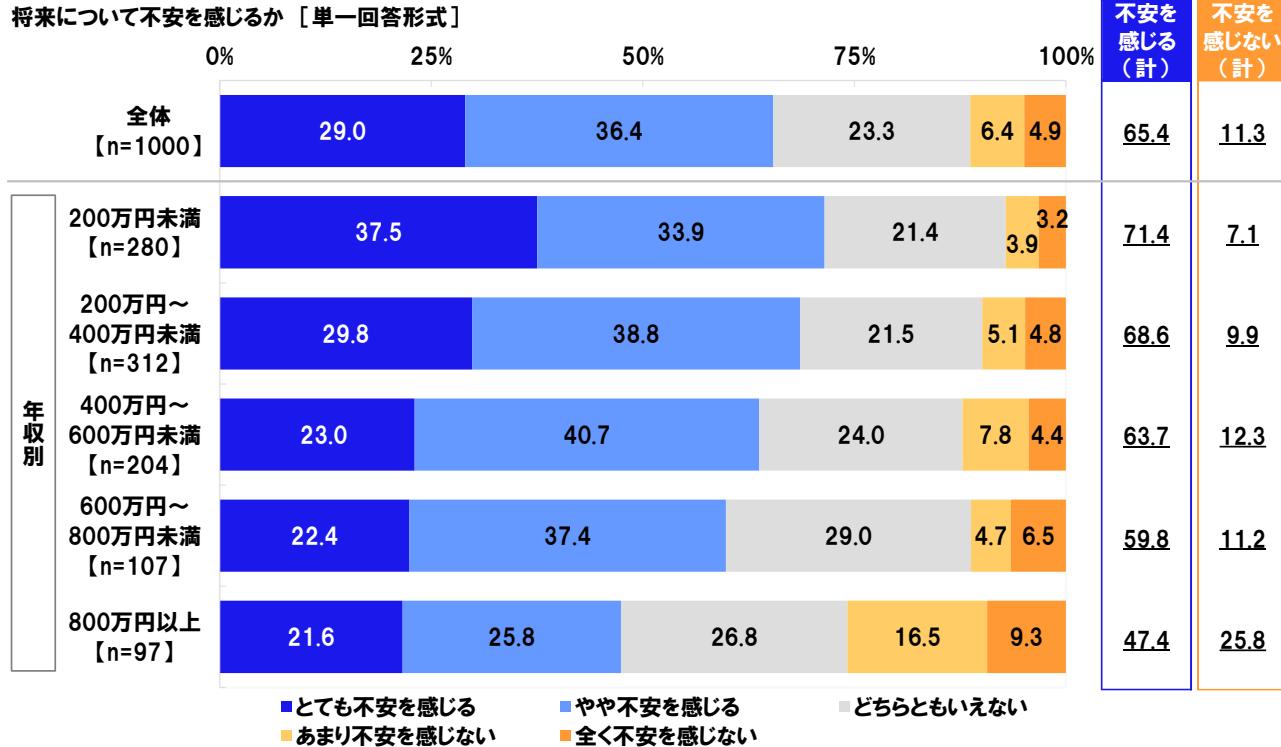
男女別にみると、「不安を感じる(計)」の割合は女性では70.6%と、男性(60.2%)と比べて10.4ポイント高くなりました。

男女・世代別にみると、「不安を感じる(計)」の割合は、女性では中高年層で高くなる傾向がみられ、40代以上(40代女性73.3%、50代女性83.5%、60代女性76.0%、70代以上女性71.1%)で7割を超え、最も高くなった50代では8割以上となりました。



また、今回の調査結果を年収別にみると、「不安を感じる(計)」の割合は、年収が上がるごとに低くなる傾向がみられ、最も高くなった200万円未満(71.4%)では7割を上回りました。一方、最も低くなった800万円以上では「不安を感じる(計)」は47.4%と、半数を下回りました。

将来について不安を感じるか [単一回答形式]



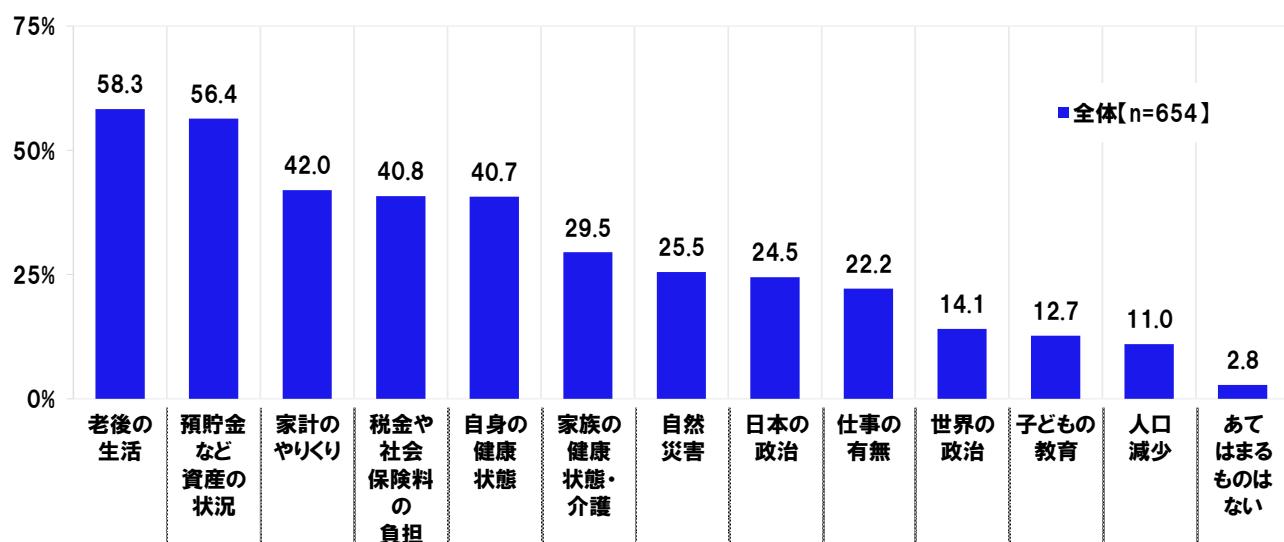
◆自身を不安にさせているもの 1位「老後の生活」2位「預貯金など資産の状況」

将来について不安を感じる人(654名)に、自身を不安にさせているものを聞いたところ、「老後の生活」(58.3%)と「預貯金など資産の状況」(56.4%)が半数以上となりました。将来の生活資金に対し不安を抱いている人が多いのではないでしょうか。以降、「家計のやりくり」(42.0%)、「税金や社会保険料の負担」(40.8%)、「自身の健康状態」(40.7%)となりました。

男女別にみると、女性では「老後の生活」(60.9%)は6割となりました。また、「家計のやりくり」(女性45.6%、男性37.9%)は7.7ポイント、「自身の健康状態」(女性45.0%、男性35.5%)は9.5ポイント、「仕事の有無」(女性26.1%、男性17.6%)は8.5ポイント、男性と比較して女性が高くなりました。他方、「日本の政治」(女性21.0%、男性28.6%)は男性が女性と比較して7.6ポイント高くなりました。

男女・世代別にみると、「老後の生活」は50代女性(73.2%)、60代女性(78.9%)、40代男性(72.4%)では7割を超えるました。また、男女ともに、20代、30代では「預貯金など資産の状況」(20代女性50.8%、30代女性66.7%、20代男性55.8%、30代男性59.0%)が最も高くなりました。

自身を不安にさせているもの【複数回答形式】 対象:将来について不安を感じる人



自身を不安にさせているもの【複数回答形式】 対象:将来について不安を感じる人

		老後の生活	預貯金など資産の状況	家計のやりくり	税金や社会保険料の負担	自身の健康状態	家族の健康状態・介護	自然災害	日本の政治	仕事の有無	世界の政治	子どもの教育	人口減少	あてはまるものはない	
		n数													
男女	全般	654	58.3	56.4	42.0	40.8	40.7	29.5	25.5	24.5	22.2	14.1	12.7	11.0	2.8
男女	女性	353	60.9	58.9	45.6	42.2	45.0	31.7	27.2	21.0	26.1	11.6	13.9	6.8	2.5
男女	男性	301	55.1	53.5	37.9	39.2	35.5	26.9	23.6	28.6	17.6	16.9	11.3	15.9	3.0
男女・世代	10代女性	20	30.0	70.0	45.0	30.0	15.0	10.0	5.0	25.0	35.0	20.0	25.0	-	-
	20代女性	63	38.1	50.8	39.7	34.9	23.8	17.5	17.5	14.3	22.2	9.5	14.3	6.3	9.5
	30代女性	63	60.3	66.7	50.8	57.1	49.2	30.2	22.2	23.8	30.2	11.1	20.6	11.1	1.6
	40代女性	66	66.7	59.1	50.0	40.9	40.9	34.8	25.8	22.7	25.8	9.1	19.7	6.1	1.5
	50代女性	71	73.2	59.2	54.9	46.5	50.7	40.8	36.6	23.9	31.0	12.7	11.3	4.2	1.4
	60代女性	38	78.9	55.3	34.2	28.9	57.9	50.0	42.1	21.1	10.5	7.9	-	10.5	-
	70代以上女性	32	65.6	56.3	31.3	43.8	78.1	28.1	34.4	15.6	28.1	18.8	3.1	6.3	-
	10代男性	18	38.9	72.2	38.9	44.4	33.3	27.8	38.9	38.9	27.8	33.3	5.6	22.2	-
	20代男性	52	32.7	55.8	40.4	46.2	23.1	13.5	25.0	30.8	28.8	17.3	13.5	13.5	1.9
	30代男性	61	47.5	59.0	36.1	39.3	19.7	29.5	16.4	27.9	18.0	16.4	16.4	16.4	4.9

※n=30未満の属性は参考値

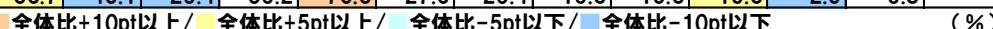
■ 全体比+10pt以上 / ■ 全体比+5pt以上 / ■ 全体比-5pt以下 / ■ 全体比-10pt以下 (%)

雇用形態別にみると、「自身の健康状態」(正規雇用の人35.2%、非正規雇用の人48.2%)は13.0ポイント、「仕事の有無」(正規雇用の人18.5%、非正規雇用の人27.2%)は8.7ポイント、非正規雇用の人が高くなりました。

雇用形態・世代別にみると、非正規雇用の人では「仕事の有無」が若年層で高くなる傾向がみられ、20代(32.3%)と30代(40.5%)では全体より10ポイント以上高くなりました。また、30代では、ほとんどの項目で非正規雇用の人が正規雇用の人を上回っており、特に「税金や社会保険料の負担」(正規雇用・30代42.7%、非正規雇用・30代59.5%)、「家族の健康状態・介護」(正規雇用・30代24.4%、非正規雇用・30代40.5%)、「仕事の有無」(正規雇用・30代15.9%、非正規雇用・30代40.5%)では15ポイント以上、非正規雇用の人が高くなりました。

自身を不安にさせているもの【複数回答形式】対象:将来について不安を感じる人

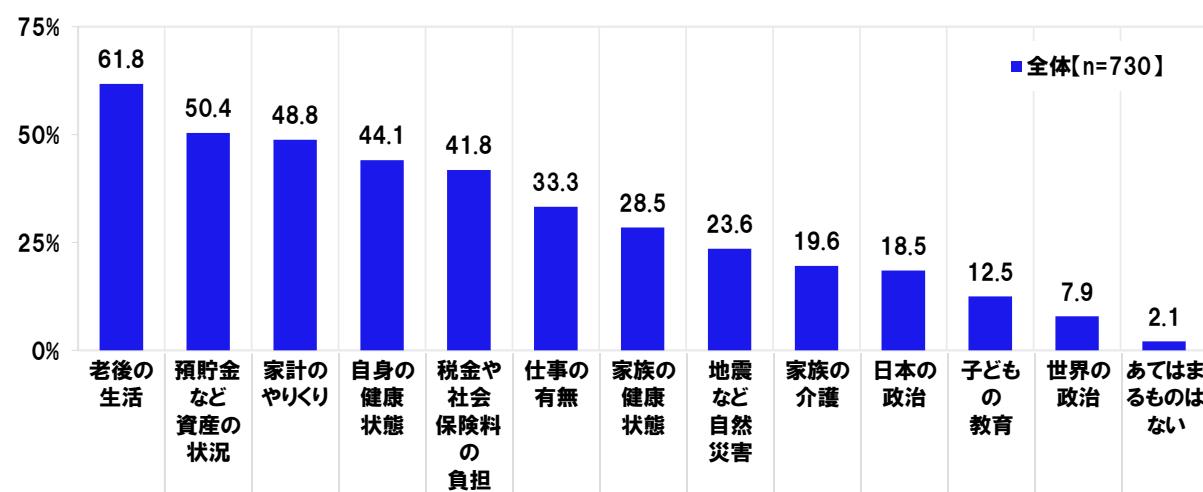
		老後の生活	預貯金など資産の状況	家計のやりくり	税金や社会保険料の負担	自身の健康状態	家族の健康状態・介護	自然災害	日本の政治	仕事の有無	世界の政治	子どもの教育	人口減少	あてはまるものはない	
n数		654	58.3	56.4	42.0	40.8	40.7	29.5	25.5	24.5	22.2	14.1	12.7	11.0	2.8
雇用形態	正規雇用	378	56.6	54.8	41.0	41.0	35.2	28.3	26.7	26.7	18.5	13.8	15.1	14.3	2.4
	非正規雇用	276	60.5	58.7	43.5	40.6	48.2	31.2	23.9	21.4	27.2	14.5	9.4	6.5	3.3
正規雇用・世代	10代	21	33.3	66.7	23.8	38.1	19.0	19.0	23.8	33.3	23.8	23.8	14.3	14.3	-
	20代	84	38.1	50.0	40.5	42.9	23.8	16.7	26.2	26.2	22.6	15.5	15.5	13.1	4.8
	30代	82	53.7	58.5	39.0	42.7	34.1	24.4	15.9	24.4	15.9	14.6	14.6	17.1	2.4
	40代	82	73.2	59.8	41.5	41.5	30.5	34.1	36.6	36.6	20.7	15.9	23.2	17.1	1.2
	50代	81	64.2	55.6	51.9	39.5	53.1	39.5	28.4	22.2	17.3	7.4	12.3	11.1	2.5
	60代	22	68.2	27.3	31.8	36.4	40.9	31.8	27.3	13.6	4.5	4.5	-	9.1	-
	70代以上	6	66.7	50.0	16.7	33.3	66.7	33.3	33.3	16.7	16.7	33.3	-	16.7	-
非正規雇用・世代	10代	17	35.3	76.5	64.7	35.3	29.4	17.6	17.6	29.4	41.2	29.4	17.6	5.9	-
	20代	31	29.0	61.3	38.7	32.3	22.6	12.9	6.5	9.7	32.3	6.5	9.7	-	9.7
	30代	42	54.8	71.4	52.4	59.5	35.7	40.5	26.2	28.6	40.5	11.9	26.2	7.1	4.8
	40代	42	61.9	54.8	47.6	35.7	50.0	31.0	19.0	23.8	26.2	16.7	14.3	4.8	-
	50代	48	72.9	58.3	47.9	45.8	52.1	33.3	25.0	18.8	25.0	14.6	4.2	6.3	4.2
	60代	45	75.6	57.8	37.8	31.1	53.3	42.2	33.3	22.2	17.8	8.9	-	8.9	4.4
	70代以上	51	66.7	45.1	29.4	39.2	70.6	27.5	29.4	19.6	19.6	19.6	2.0	9.8	-

※n=30未満の属性は参考値 

2019年の調査結果についてみると、選択肢が異なるため単純には比較できないものの、上位3位は同じでしたが、2位の「預貯金など資産の状況」(2019年50.4%、2025年56.4%)は6.0ポイント上昇、3位の「家計のやりくり」(2019年48.8%、2025年42.0%)は6.8ポイント下降しました。また、「日本の政治」(2019年18.5%、2025年24.5%)が6.0ポイント、「世界の政治」(2019年7.9%、2025年14.1%)が6.2ポイント、それぞれ上昇しました。

【2019年調査結果】自身を不安にさせているもの【複数回答形式】

対象:将来について不安を感じことがある人



«社会に関する意識»

◆理想とする社会のイメージは?

多数派は、「格差はあっても力強く成長する社会」より「緩やかな成長でも格差の小さい社会」、
「生涯現役で活躍できる社会」より「引退しても老後が安心な社会」

◆「理想とする社会のイメージは“税金などの負担は小さいが、自己責任型の社会”に近い」は

2019年調査から5.0ポイント上昇

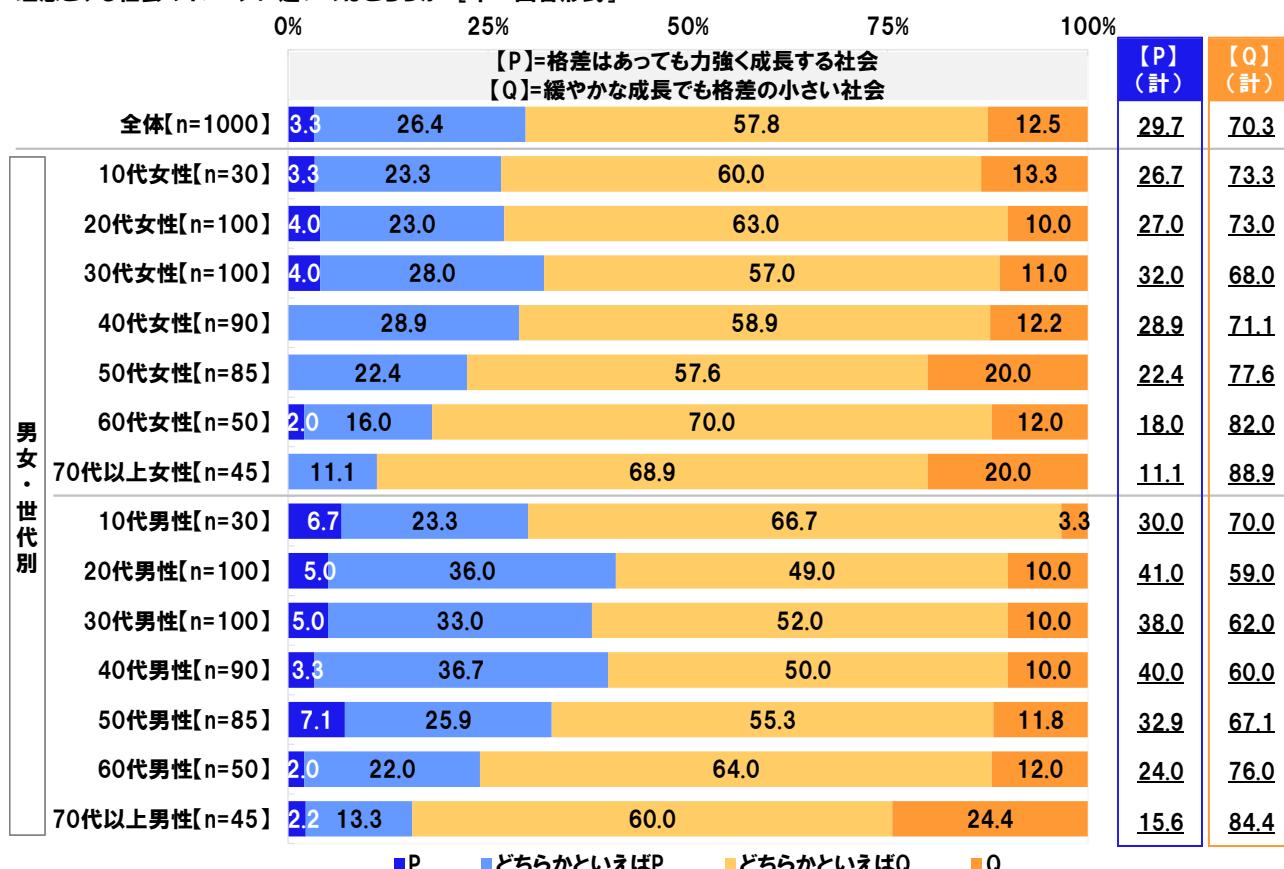
理想とする社会のイメージについて質問しました。

全回答者(1,000名)に、社会の成長について、【格差はあっても力強く成長する社会】と【緩やかな成長でも格差の小さい社会】のどちらが理想とする社会のイメージに近いか聞いたところ、【緩やかな成長でも格差の小さい社会】が70.3%と多数派となりました。

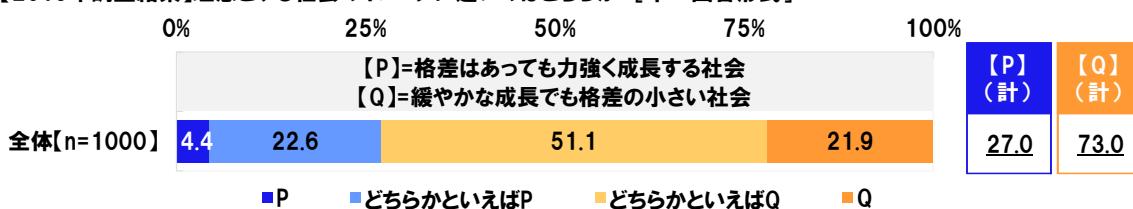
男女・世代別にみると、【緩やかな成長でも格差の小さい社会】が最も高くなったのは、70代以上女性(88.9%)で、9割に近くなりました。他方、20代男性と40代男性では、【格差はあっても力強く成長する社会】(20代男性41.0%、40代男性40.0%)が他の世代と比較して高くなっており、4割以上でした。

過去の調査結果と比較すると、【格差はあっても力強く成長する社会】は2019年調査では27.0%、【緩やかな成長でも格差の小さい社会】は2019年調査では73.0%となっており、大きな変化はみられませんでした。

理想とする社会のイメージに近いのはどちらか [単一回答形式]



【2019年調査結果】理想とする社会のイメージに近いのはどちらか [単一回答形式]

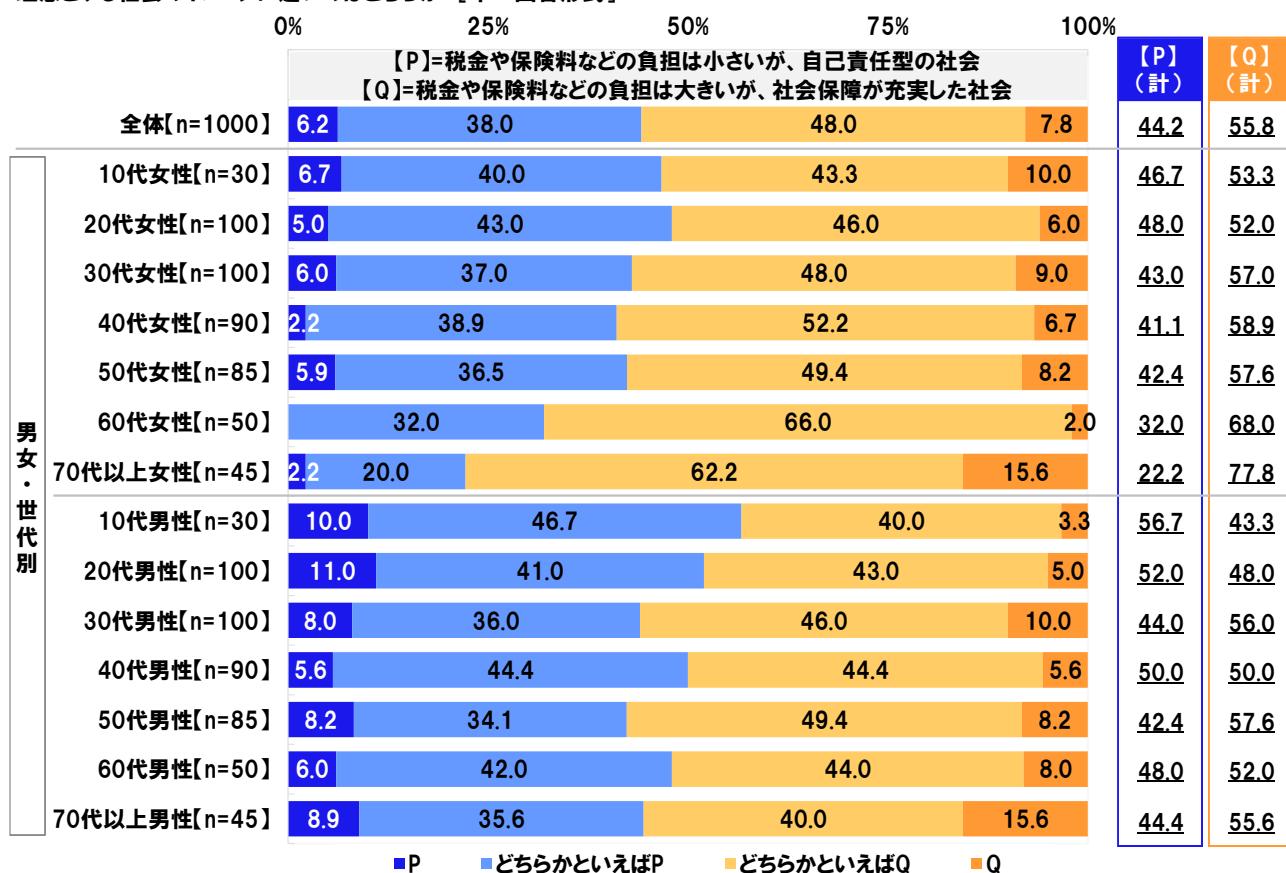


社会保障制度について、【税金や保険料などの負担は小さいが、自己責任型の社会】と【税金や保険料などの負担は大きいが、社会保障が充実した社会】のどちらが理想とする社会のイメージに近いか聞いたところ、【税金や保険料などの負担は大きいが、社会保障が充実した社会】が 55.8%で多数派でした。

男女・世代別にみると、女性では高年層で、【税金や保険料などの負担は大きいが、社会保障が充実した社会】(60代女性 68.0%、70代以上女性 77.8%)が突出して高くなる傾向がみられました。男性では、20代以下で【税金や保険料などの負担は小さいが、自己責任型の社会】(10代男性 56.7%、20代 52.0%)が多数派、40代では【税金や保険料などの負担は小さいが、自己責任型の社会】と【税金や保険料などの負担は大きいが、社会保障が充実した社会】(いずれも 50.0%)が拮抗しました。

2019年の調査結果をみると、2019年では【税金などの負担は小さいが、自己責任型の社会】が 39.2%、2025年では【税金や保険料などの負担は小さいが、自己責任型の社会】が 44.2%と、“自己責任型の社会”的割合が上昇しており、選択肢が異なるため単純には比較できないものの、より少ない負担を志向する人がやや増えている様子がうかがえました。

理想とする社会のイメージに近いのはどちらか [単一回答形式]



【2019年調査結果】理想とする社会のイメージに近いのはどちらか [単一回答形式]

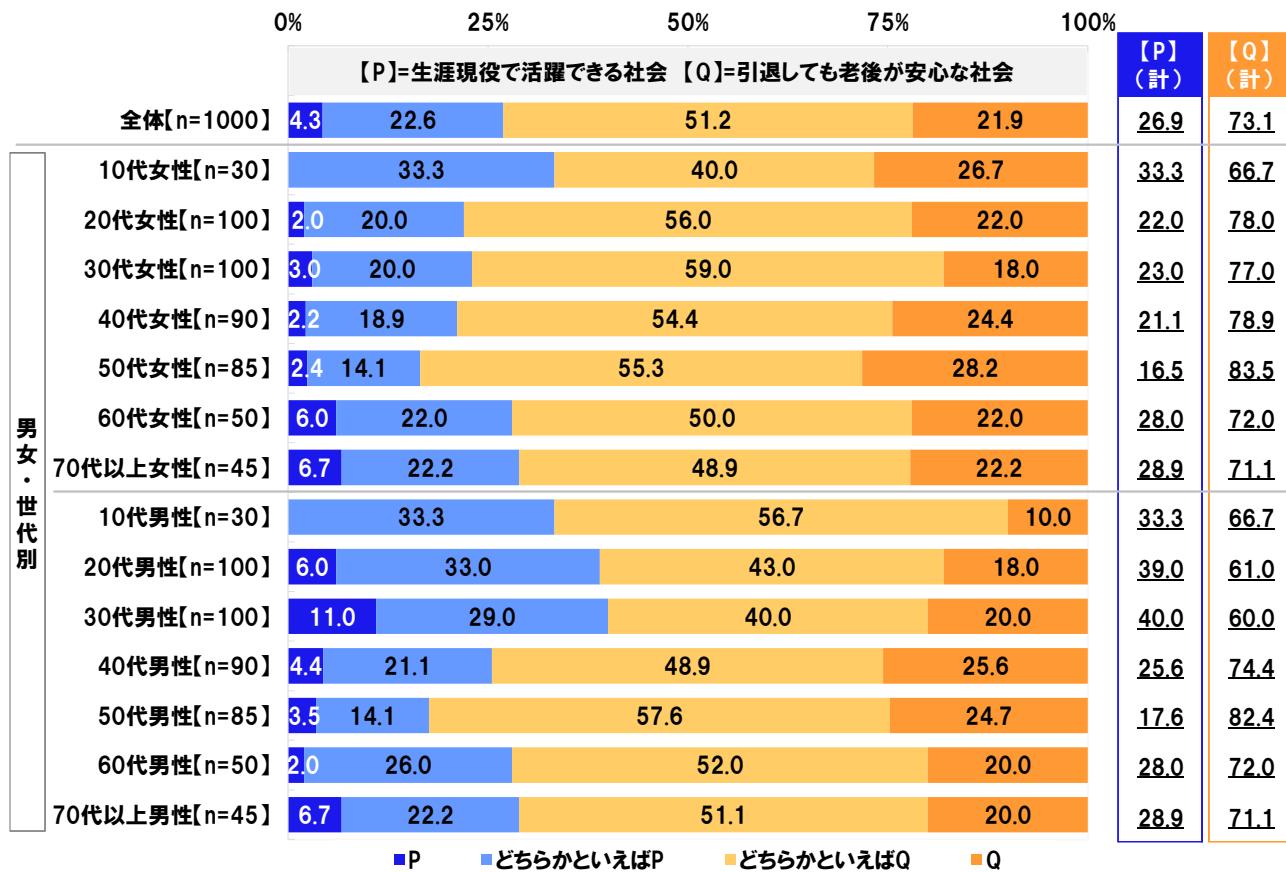


老後の生活について、【生涯現役で活躍できる社会】と【引退しても老後が安心な社会】のどちらが理想とする社会のイメージに近いか聞いたところ、【引退しても老後が安心な社会】が 73.1%と多数派でした。

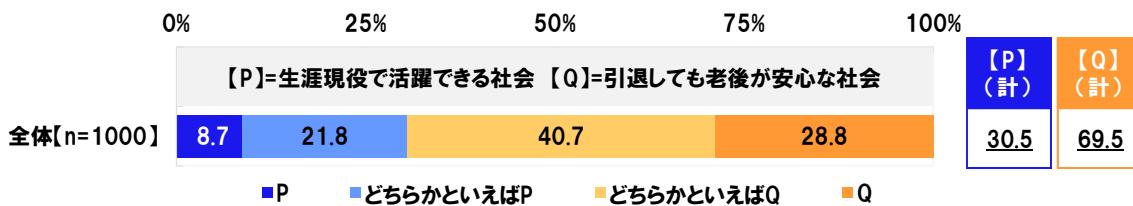
男女・世代別にみると、【生涯現役で活躍できる社会】の割合は、20 代男性(39.0%)、30 代男性(40.0%)で高くなりました。また、【引退しても老後が安心な社会】は、男女ともに 50 代(女性 83.5%、男性 82.4%)で高くなりました。

過去の調査結果と比較すると、2019 年調査では【生涯現役で活躍できる社会】は 30.5%、【引退しても老後が安心な社会】は 69.5%となっており、今回の調査では 2019 年調査とおおむね同様の傾向となりました。

理想とする社会のイメージに近いのはどちらか [単一回答形式]



【2019年調査結果】理想とする社会のイメージに近いのはどちらか [単一回答形式]

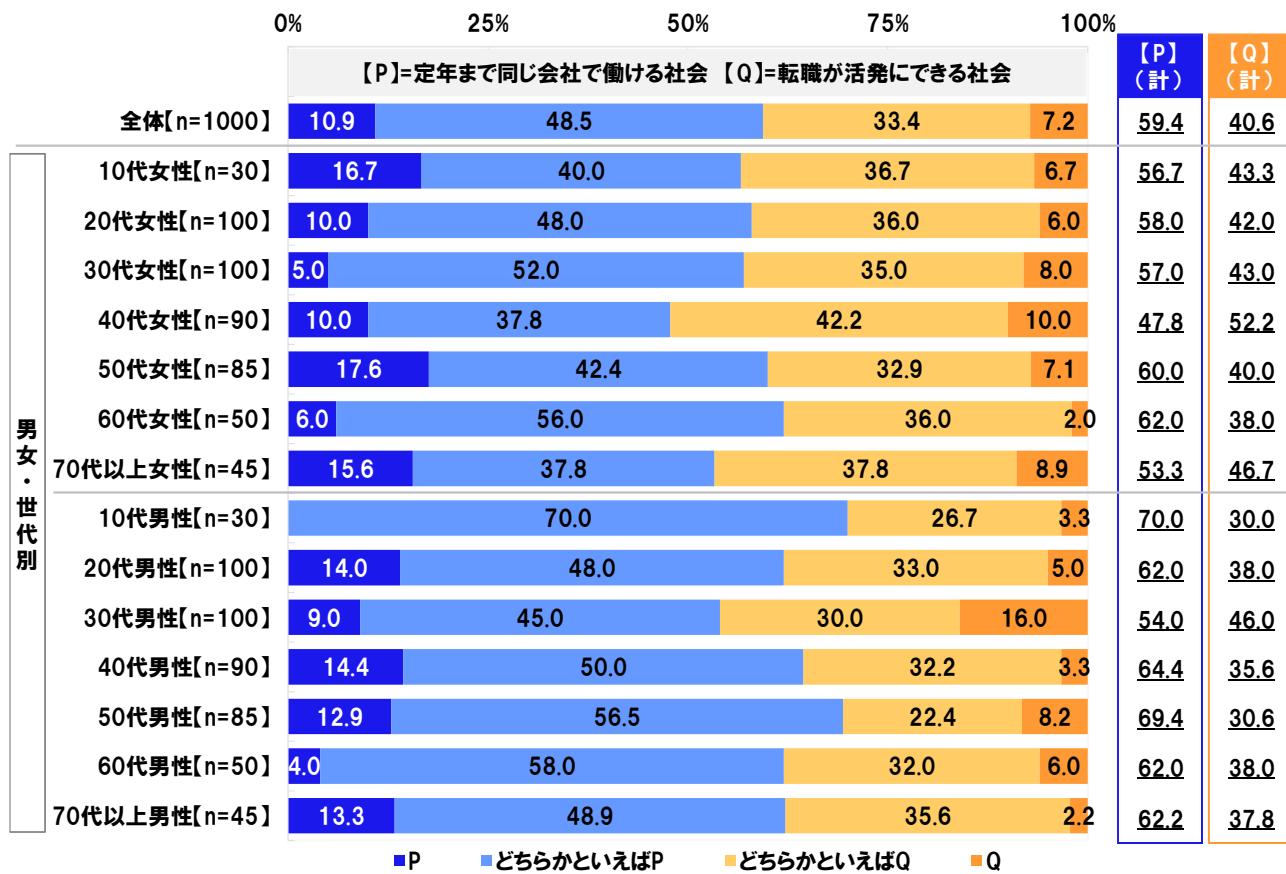


働き方について、【定年まで同じ会社で働ける社会】と【転職が活発にできる社会】のどちらかでは、【定年まで同じ会社で働ける社会】が 59.4%で多数派となりました。

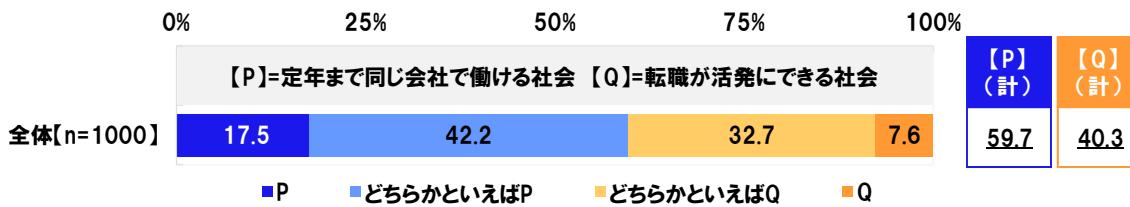
男女・世代別にみると、40 代女性では【転職が活発にできる社会】(52.2%)が多数派となりました。

過去の調査結果と比較すると、2019 年調査では、【定年まで同じ会社で働ける社会】が 59.7%、【転職が活発にできる社会】が 40.3%となっており、今回の調査では 2019 年の調査と同水準となりました。

理想とする社会のイメージに近いのはどちらか [単一回答形式]



【2019年調査結果】理想とする社会のイメージに近いのはどちらか [単一回答形式]



◆「10年後の日本は、今よりよくなっていると思う」69.9%

全回答者(1,000名)に、10年後の日本は、今よりよくなっていると思うか聞いたところ、「とてもよくなっていると思う」が2.5%、「ある程度よくなっていると思う」が27.6%で、合計した「よくなっている(計)」が30.1%、「全くよくなっていないと思う」が18.6%、「あまりよくなっていないと思う」が51.3%で、合計した「よくなっていない(計)」が69.9%となり、過半数が日本の将来に不安を感じている結果となりました。

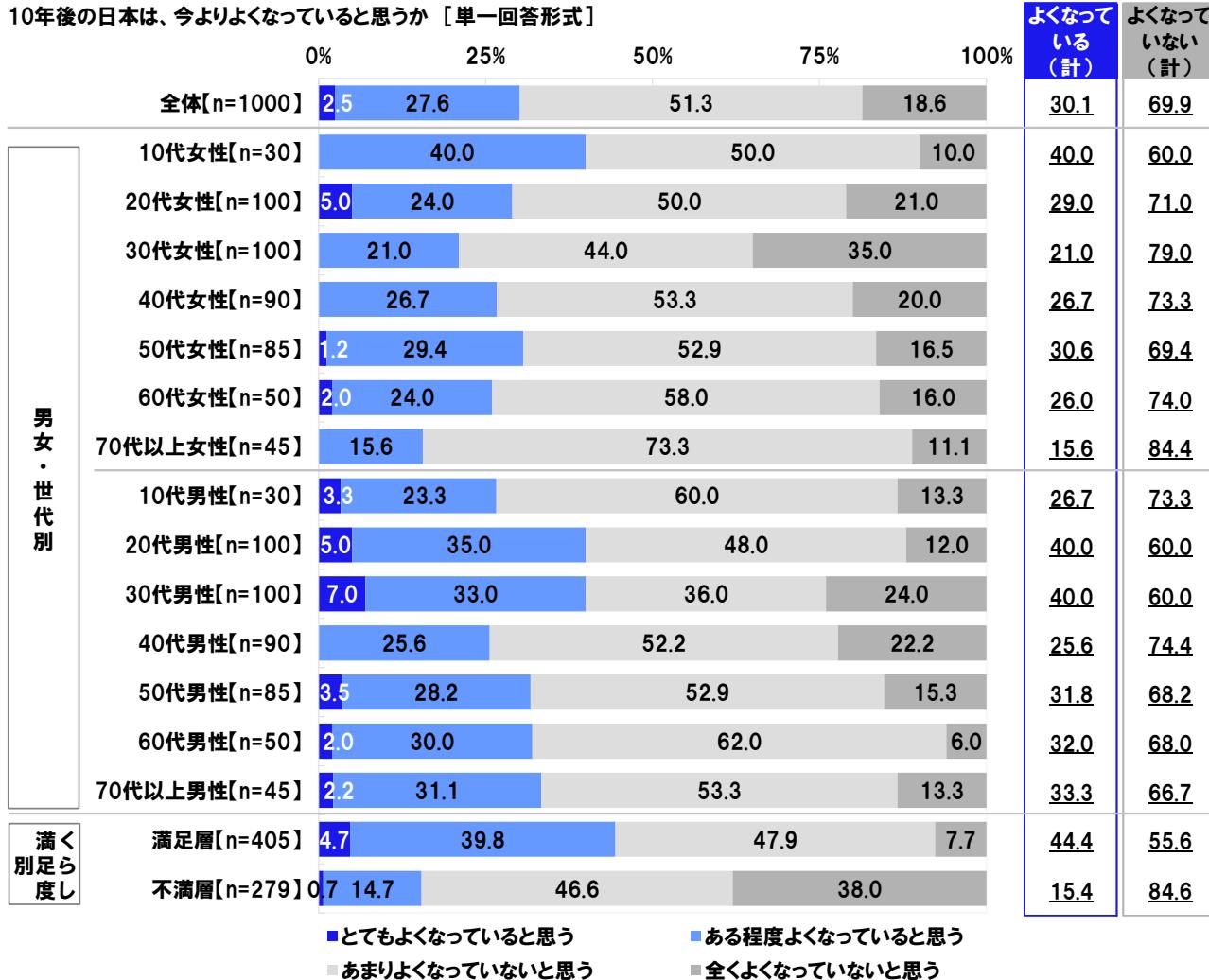
男女・世代別にみると、10代女性、20代男性、30代男性では「よくなっている(計)」(いずれも40.0%)が4割となりました。他方、70代以上女性では「よくなっていない(計)」が84.4%と、8割以上となりました。

くらしの満足度別にみると、不満層では、「よくなっていない(計)」(満足層55.6%、不満層84.6%)が、満足層と比較して29.0ポイント高くなりました。

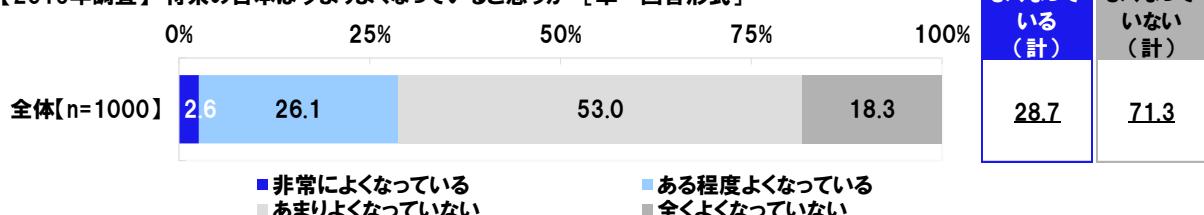
2019年の調査結果では、将来の日本は今よりよくなっていると思うか聞いたところ、「よくなっている(計)」「非常に」と「ある程度」の合計)は28.7%、「よくなっていない(計)」「全く」と「あまり」の合計)は71.3%でした。

(※) 今回の調査とは質問内容が異なるため、今回の結果と単純に比較できない点に留意が必要。

10年後の日本は、今よりよくなっていると思うか [単一回答形式]



【2019年調査】将来の日本は今よりよくなっていると思うか [単一回答形式]



◆自身の考える“理想の社会”を実現するために重要であると思うもの

1位「賃金・労働環境の改善」2位「安定した雇用」

全回答者(1,000名)に、自身の考える“理想の社会”を実現するために、重要であると思うものを聞いたところ、1位「賃金・労働環境の改善」(46.3%)、2位「安定した雇用」(41.3%)となりました。働き方について、条件や安定性の向上を求める人が多いようです。以降、3位「医療や介護など社会保障制度の充実」(35.3%)、4位「貧困・格差の解消」(30.3%)、5位「失敗してもやり直しがきく環境」(26.4%)でした。

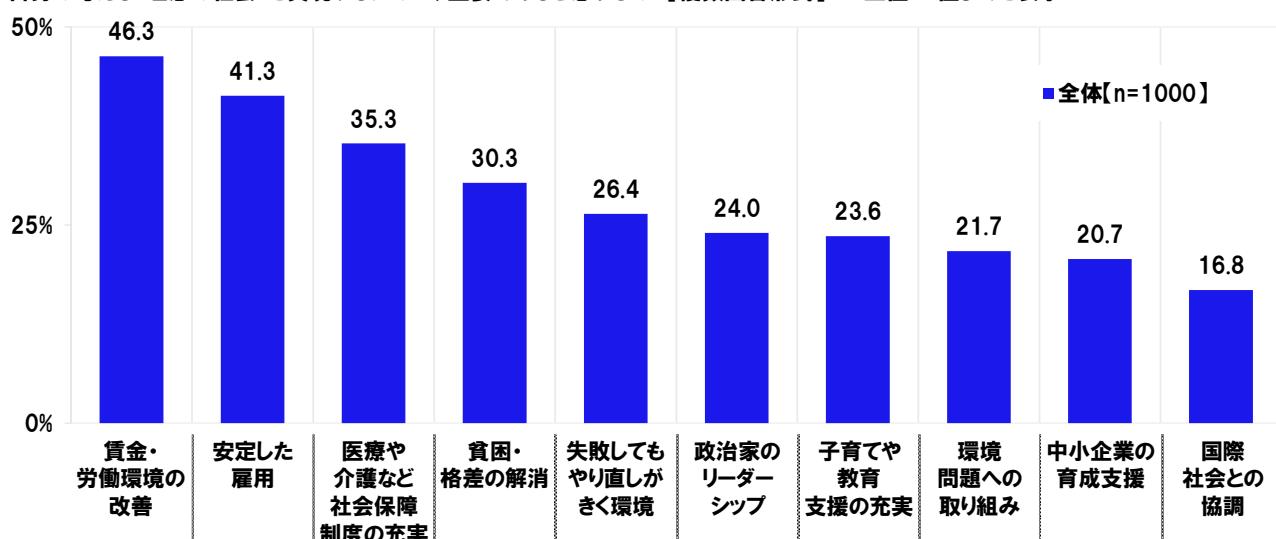
男女別にみると、「医療や介護など社会保障制度の充実」(女性 42.2%、男性 28.4%)では男性と比較して女性が 13.8 ポイント高くなりました。

世代別にみると、70代以上では「医療や介護など社会保障制度の充実」が 70.0%と、最も高くなりました。また、10代では「失敗してもやり直しがきく環境」(31.7%)が他の世代と比較して高くなりました。

雇用形態別にみると、非正規雇用の人では、「安定した雇用」(46.3%)、「医療や介護など社会保障制度の充実」(45.1%)、「貧困・格差の解消」(36.5%)は全体と比較して 5 ポイント以上高くなりました。

くらしの満足度別にみると、不満層では「賃金・労働環境の改善」(61.3%)は 6 割、「安定した雇用」(50.5%)は 5 割を上回りました。

自身の考える“理想の社会”を実現するために、重要であると思うもの【複数回答形式】※上位10位までを表示



自身の考える“理想の社会”を実現するために、重要であると思うもの【複数回答形式】※上位10位までを表示

		賃金・労働環境の改善	安定した雇用	医療や介護など社会保障制度の充実	貧困・格差の解消	失敗してもやり直しがきく環境	政治家のリーダーシップ	子育てや教育支援の充実	環境問題への取り組み	中小企業の育成支援	国際社会との協調
n数											
全体	1000	46.3	41.3	35.3	30.3	26.4	24.0	23.6	21.7	20.7	16.8
男女	女性	48.0	45.4	42.2	32.0	25.2	21.6	26.0	24.4	21.0	15.2
	男性	44.6	37.2	28.4	28.6	27.6	26.4	21.2	19.0	20.4	18.4
世代	10代	46.7	40.0	25.0	28.3	31.7	23.3	28.3	16.7	21.7	16.7
	20代	36.0	32.0	25.0	20.0	27.5	19.5	26.0	14.5	13.0	14.5
	30代	38.0	33.5	21.5	28.0	22.0	21.0	21.0	12.5	24.5	10.5
	40代	49.4	42.8	30.6	29.4	27.8	20.6	21.1	21.1	21.1	14.4
	50代	57.6	51.2	46.5	32.9	28.2	29.4	21.2	27.6	21.2	19.4
	60代	56.0	49.0	48.0	31.0	22.0	20.0	25.0	33.0	19.0	14.0
	70代以上	48.9	50.0	70.0	55.6	28.9	42.2	28.9	38.9	28.9	38.9
雇用形態	正規雇用	45.3	38.0	28.9	26.2	25.9	24.7	22.6	20.4	21.6	16.1
	非正規雇用	47.9	46.3	45.1	36.5	27.2	22.9	25.2	23.7	19.4	17.9
くらし満足度	満足層	43.5	42.7	39.0	27.9	24.9	24.4	26.9	23.7	21.2	17.5
	不満層	61.3	50.5	37.6	39.8	34.4	29.4	24.0	25.1	26.2	17.9

■ 全体比+10pt以上 / ■ 全体比+5pt以上 / ■ 全体比-5pt以下 / ■ 全体比-10pt以下

(%)

《メディア・SNSに関する意識・実態》

◆日常生活に必要な情報を得ているメディア 30代以下では「SNS」が主流

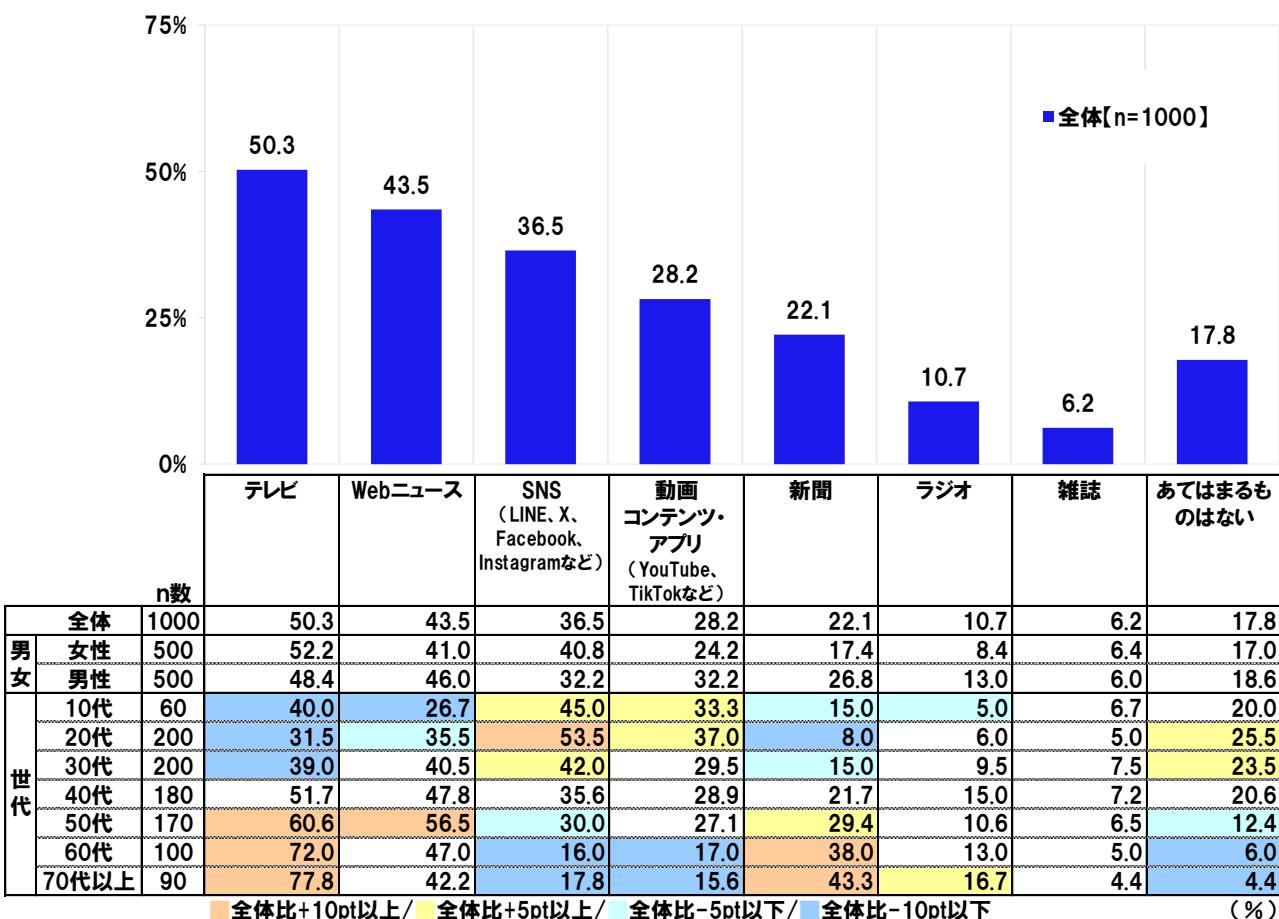
メディアについて質問しました。

全回答者(1,000名)に、日常生活に必要な情報を、どのメディアから得ているか聞いたところ、「テレビ」(50.3%)が最も高く、半数となりました。次いで、「Webニュース」(43.5%)、「SNS」(36.5%)、「動画コンテンツ・アプリ」(28.2%)、「新聞」(22.1%)となりました。

男女別にみると、「Webニュース」(女性 41.0%、男性 46.0%)、「動画コンテンツ・アプリ」(女性 24.2%、男性 32.2%)、「新聞」(女性 17.4%、男性 26.8%)は男性が女性と比較して 5 ポイント以上高くなりました。他方、「SNS」(女性 40.8%、男性 32.2%)は女性が男性よりも 8.6 ポイント高くなりました。

世代別にみると、「テレビ」は高年層で高くなる傾向がみられ、60代以上(60代 72.0%、70代以上 77.8%)では 7 割を上回りました。また、50代では「Webニュース」(56.5%)が他の世代と比較して高くなりました。他方、「SNS」は若年層で高くなっています、30代以下(10代 45.0%、20代 53.5%、30代 42.0%)では 1 位となりました。また、20代では 1 位「SNS」(53.5%)、2 位「動画コンテンツ・アプリ」(37.0%)となりました。

日常生活に必要な情報を、どのメディアから得ているか [複数回答形式]



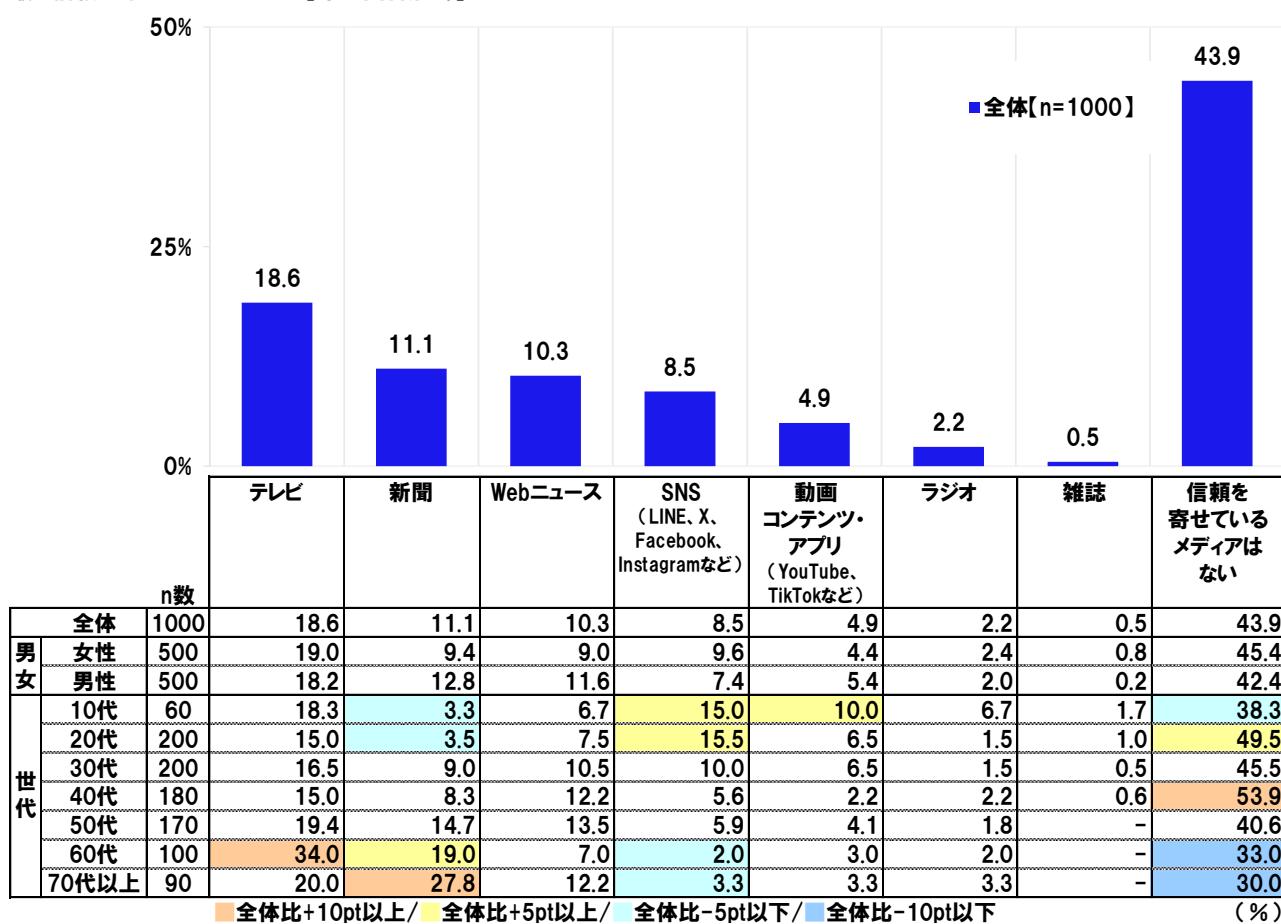
◆メディアに対する信頼について、「信頼を寄せているメディアはない」が最多に

次に、最も信頼を寄せているメディアを聞いたところ、「テレビ」(18.6%)が最も高くなり、「新聞」(11.1%)、「Webニュース」(10.3%)、「SNS」(8.5%)、「動画コンテンツ・アプリ」(4.9%)が続きました。日常生活に必要な情報を得ているメディアで1位だった「テレビ」が信頼度でも1位となった一方、どの媒体においても割合は2割を下回り、「信頼を寄せているメディアはない」が43.9%と、最多となりました。

男女別にみると、「新聞」(女性9.4%、男性12.8%)は男性が女性と比較して3.4ポイント高くなりました。

世代別にみると、「テレビ」は60代(34.0%)で最も高くなりました。また、「新聞」は高年層で高くなる傾向がみられ、70代以上(27.8%)では3割に近くなつた一方、若年層では低く、20代以下(10代3.3%、20代3.5%)では5%未満にとどまりました。また、「SNS」は若年層で高くなり、20代以下(10代15.0%、20代15.5%)では15%以上でした。40代では「信頼を寄せているメディアはない」(53.9%)が半数以上となりました。

最も信頼を寄せているメディア [単一回答形式]



◆「SNSや動画コンテンツを日常的に使用する」79.3%

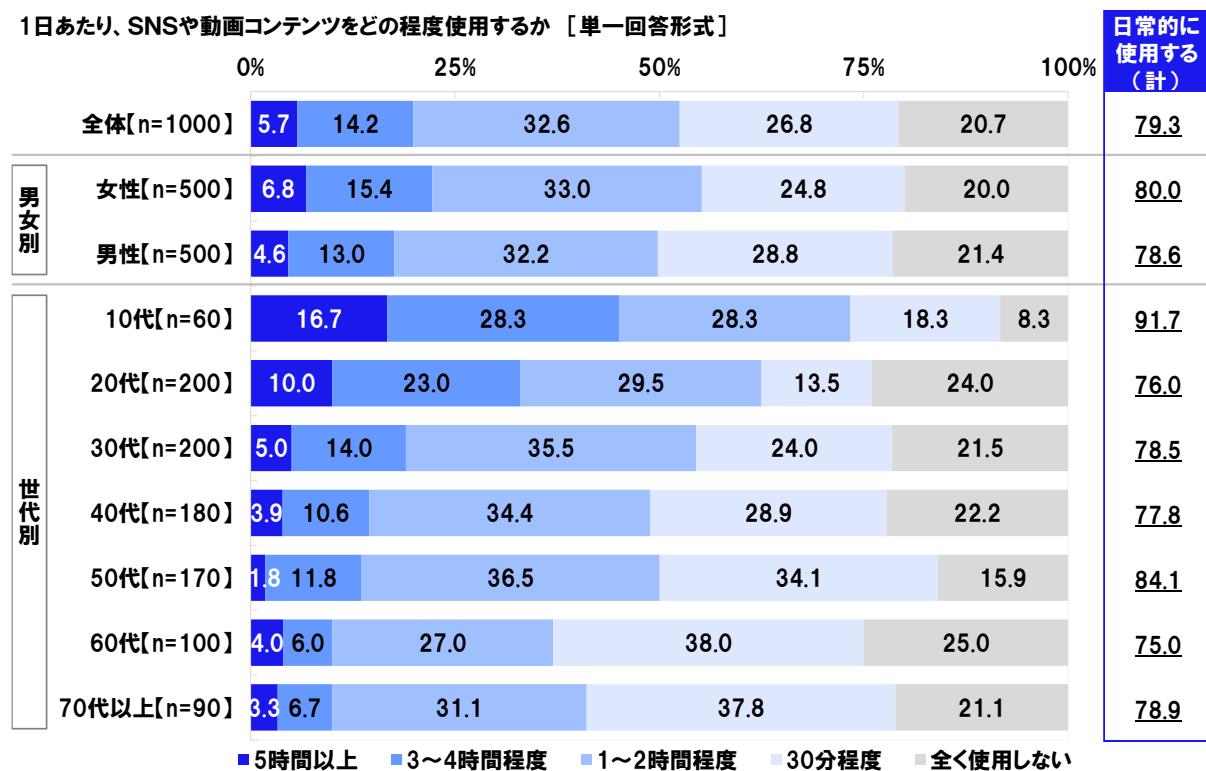
◆1日のSNSや動画コンテンツの使用時間が長いほど、将来への不安が高くなる傾向

全回答者(1,000名)に、1日あたり、SNSや動画コンテンツをどの程度使用するか聞いたところ、「1~2時間程度」(32.6%)や「30分程度」(26.8%)が高くなつたほか、「3~4時間程度」(14.2%)、「全く使用しない」(20.7%)にも回答が集まり、「日常的に使用する(計)」は79.3%でした。

男女別にみると、女性では「日常的に使用する(計)」(80.0%)は8割となりました。

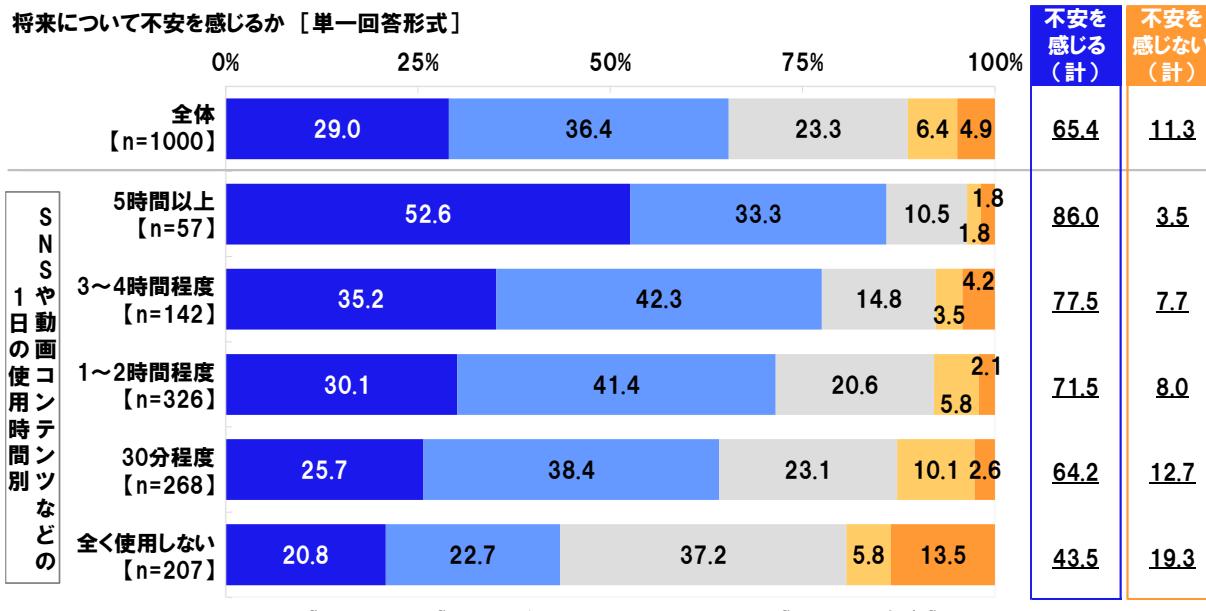
世代別にみると、「日常的に使用する(計)」は10代で91.7%と突出して高くなり、50代(84.1%)が続きました。

1日あたり、SNSや動画コンテンツをどの程度使用するか [単一回答形式]



■5時間以上 ■3~4時間程度 ■1~2時間程度 ■30分程度 ■全く使用しない

ここで、1日のSNSや動画コンテンツなどの使用時間別に、将来についての不安をみると、「不安を感じる(計)」の割合は、SNSや動画コンテンツの使用時間が長いほど、高くなる傾向がみられ、最も高くなつた5時間以上の人(86.0%)では、全く使用しない人(43.5%)より42.5ポイント高くなりました。



■とても感じる ■やや感じる ■どちらともいえない ■あまり感じない ■全く感じない

◆SNSや動画コンテンツを利用するうえでのメリットは？

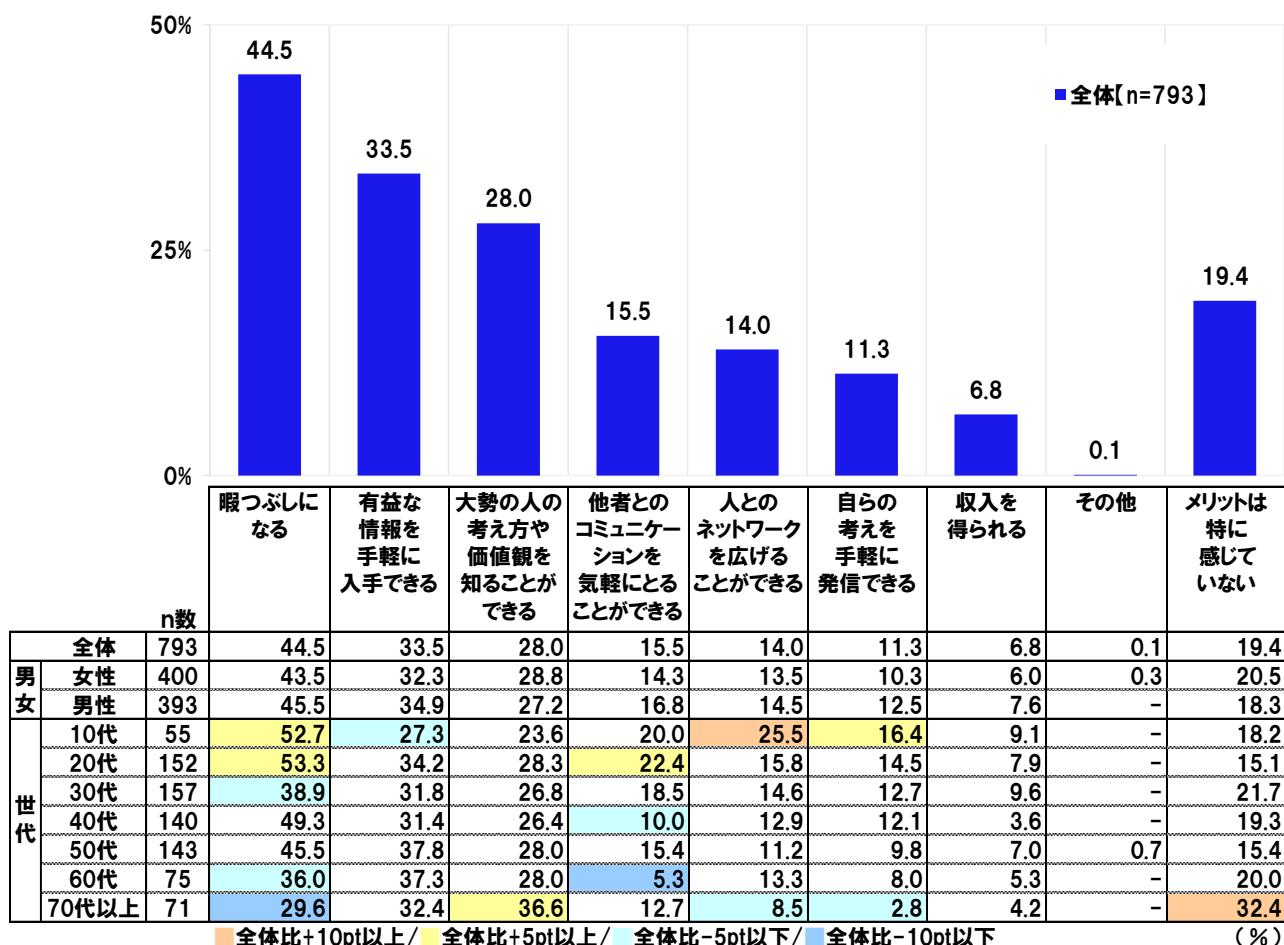
SNS・動画コンテンツを日常的に使用する人(793名)に、SNSや動画コンテンツを利用するうえで、どのようなことがメリットであると考えるか聞いたところ、「暇つぶしになる」(44.5%)が最も高くなりました。次いで、「有益な情報を手軽に入手できる」(33.5%)、「大勢の人の考え方や価値観を知ることができる」(28.0%)、「他者とのコミュニケーションを気軽にとることができる」(15.5%)、「人とのネットワークを広げることができる」(14.0%)となりました。

男女別にみると、「有益な情報を手軽に入手できる」(女性 32.3%、男性 34.9%)は男性が女性と比較して2.6ポイント高くなりました。

世代別にみると、「暇つぶしになる」は若年層で高くなっています。20代以下(10代 52.7%、20代 53.3%)では半数以上となりました。また、10代では、「有益な情報を手軽に入手できる」(27.3%)が他の世代と比較して低くなっています。一方、「人とのネットワークを広げることができる」(25.5%)が他の世代と比較して高くなりました。「他者とのコミュニケーションを気軽にとることができる」は60代では5.3%と、突出して低くなりました。

SNSや動画コンテンツを利用するうえで、どのようなことがメリットであると考えるか [複数回答形式]

対象:SNS・動画コンテンツを日常的に使用する人



■ 全体比+10pt以上/ ■ 全体比+5pt以上/ ■ 全体比-5pt以下/ ■ 全体比-10pt以下

◆SNS・動画コンテンツへの不安 “情報の正確性”“個人情報の漏洩”“誹謗中傷、炎上”がTOP3

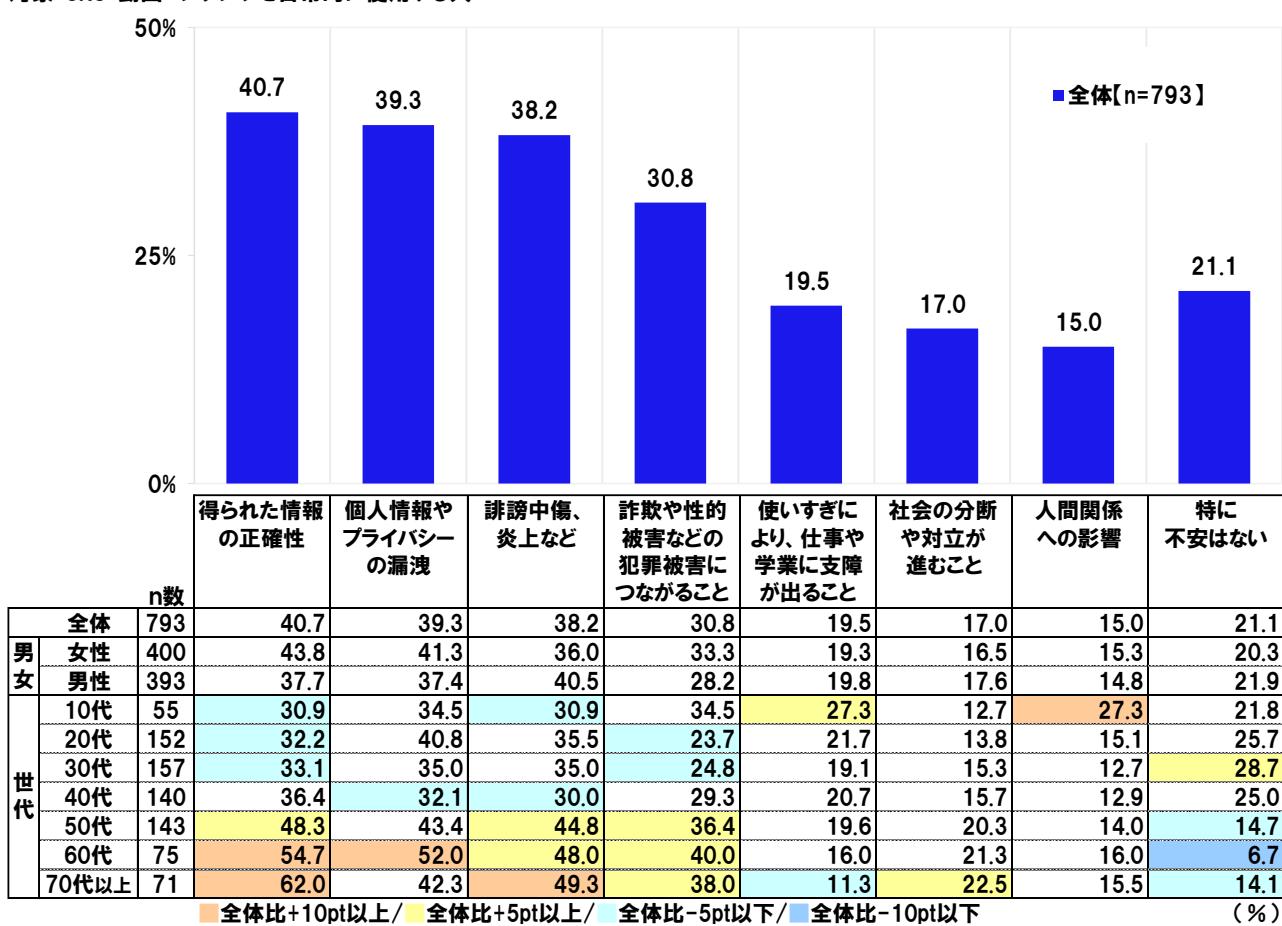
他方、SNS や動画コンテンツに対し、どのような不安があるか聞いたところ、「得られた情報の正確性」(40.7%)が最も高くなつたほか、「個人情報やプライバシーの漏洩」(39.3%)、「誹謗中傷、炎上など」(38.2%)、「詐欺や性的被害などの犯罪被害につながること」(30.8%)が特に高くなりました。

男女別にみると、「得られた情報の正確性」(女性 43.8%、男性 37.7%)は 6.1 ポイント、「詐欺や性的被害などの犯罪被害につながること」(女性 33.3%、男性 28.2%)は 5.1 ポイント、男性と比較して女性が高くなりました。

世代別にみると、「得られた情報の正確性」は年代が上がるにつれ高くなり、70 代(62.0%)では 6 割を上回りました。60 代では「個人情報やプライバシーの漏洩」(52.0%)が半数以上となりました。また、10 代では「使いすぎにより、仕事や学業に支障が出ること」「人間関係への影響」(いずれも 27.3%)が他の世代と比較して高くなりました。学生時代から SNS や動画コンテンツが身近にあった 10 代では、学業や人間関係への影響を懸念している人が多いのではないでしょうか。

SNSや動画コンテンツに対し、どのような不安があるか [複数回答形式]

対象:SNS・動画コンテンツを日常的に使用する人



注:本調査レポートの百分率表示は小数点第2位で四捨五入しているため、内訳の計と合計が一致しない場合や、全ての内訳を合計しても100%とならない場合があります。

■■調査概要■■

- ◆調査タイトル :日本の社会像に関する意識調査 2025
- ◆調査対象 :ネットエイジアリサーチのモニター会員を母集団とする15歳以上の働く男女
(自営業・フリーランスを除く)
- ◆調査期間 :2025年10月28日～10月30日の3日間
- ◆調査方法 :インターネット調査
- ◆調査地域 :全国
- ◆有効回答数 :1,000サンプル(男女が均等になるように割付)

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	計
女性	30	100	100	90	85	50	45	500
男性	30	100	100	90	85	50	45	500

- ◆実施機関 :ネットエイジア株式会社

■■報道関係の皆様へ■■

本ニュースレターの内容の転載にあたりましては、「連合調べ」と付記のうえご使用くださいますよう、お願い申し上げます。

■■本調査に関するお問合せ窓口■■

連合(日本労働組合総連合会)

総合企画局 企画・広報局 担当:千葉
TEL : 03-5295-0510
E メール : jtuc-kikaku@sv.rengo-net.or.jp

受付時間 : 10時00分～17時30分(月～金)

■■連合(日本労働組合総連合会) 概要■■

組織名 :連合(日本労働組合総連合会)
代表者名 :会長 芳野 友子
発足 :1989年11月
所在地 :東京都千代田区神田駿河台3-2-11 連合会館
活動内容 :すべての働く人たちのために、希望と安心の社会をつくる